

表 8 S P F 兎群の検査及び処置

病 原 体	供試抗原 <sup>1)</sup>	検査時期及び検査頭数		検査方法 <sup>2)</sup>	処 置
		時 期	頭 数		
センダイウイルス	MN	1 か月毎	退役動物から 1 0 匹を 無作為抽出	CF	抗体陽性群・同居群 <sup>3)</sup> 全殺
日本脳炎ウイルス		"	"	HI	"
マイコプラズマ プルモニス		"	"	菌分離	陽性群・同居群 全殺
緑膿菌		"	"	菌分離	"
サルモネラ		"	"	菌分離	"
サルモネラ ティフィムリウム	K-28	"	"	AGG	抗体陽性群・同居群 全殺
バクテリヤ ニューモトロピカ		"	"	菌分離	陽性群・同居群 全殺
バクテリヤ ムルチシダ		"	"	菌分離	"
ボルデテラ ブロンチセプチカ	64L	"	"	AGG	抗体陽性群・同居群 全殺
ストレプトコッカス ニューモニエ		"	"	菌分離	陽性群・同居群 全殺
ストレプトコッカス ズーエビデミカス		"	"	菌分離	"
バシラス ピリフォルミス	RT MSK	"	"	CF ELISA IFA	抗体陽性群・同居群 全殺
アイメリア		"	"	鏡検	陽性群・同居群 全殺
兎吸吮ヒゼンダニ		"	"	鏡検	"
兎ボックスウイルス		"	"	ELISA IFA	抗体陽性群・同居群 全殺
狂犬病ウイルス <sup>4)</sup>					
兎粘液腫ウイルス / 兎線維腫ウイルス <sup>4)</sup>					
兎ウイルス性出血病ウイルス <sup>4)</sup>					

注 兎の健康状態、異常な点等については全て記録する。死亡した兎については病理組織学的検査等を行う。

1) 供試抗原は、他の適切な株を使用してもよい。

2) 同等な検査方法があればその検査法を採用してもよい。検査方法は、その妥当性が検証され、保証された方法で実施すること。 H I : 赤血球凝集抑制反応 E L I S A : 免疫酵素抗体法 I F A : 間接蛍光抗体法 A G G : 凝集反応 C F : 補体結合反応

3) 同居群とは、陽性群と完全に隔離されていない群をいう。

4) 国内で発生がない (又は重要度が低い) ものについては、抗原、試験法及び処置については発生国が実施している方法を重視する。